



木もれびの森の森の虫たち (17)

寒さに見舞われいよいよ冬が来たかと思ったら暖かい陽気で汗をかくという過ごしにくい状況が続いており虫たちもさぞかし途惑っていると想像しています。森を散策しても何処かに潜り込んでいる虫たちにはなかなか出会えませんが、こぶし広場前の散策路でヤマナメクジの交尾現場に遭遇しました。ヤマナメクジはこの時期にどこからともなく出現する大型のナメクジ(約 10cm)です。雌雄同体で単独で生殖も出来ますが、自家受精はめったにしないようで、別の個体と交尾して生殖するそうです。巴型に交わった真ん中の白い部分は何でしょうか？お互いに精子を注入し合いそれぞれの個体が産卵するという子孫を残す上で非常に有利な生き方をしているといえます。

昨年も出会った枝葉?を背負った奇妙な生き物(5mm 位)を又観察しました。この正体は何者か分かりません。皆さんも調べてみて下さい。(海野)



2016.11.18

2015.11.20

木もれびの森の外来種植物

コセンダングサとアメリカセンダングサ

○ コセンダングサ (キク科)

熱帯アメリカ原産の一年草、日本には江戸時代に渡来。

花丈は 50~100 cm くらいの直立で、茎は緑色で分岐があり、4~6 角形で細かい毛が多く、葉は下方で対生、上部は互生で枝先に黄色の頭状花。

実はやや平たい四角形で目立つ。頭に 3~4 本の刺があり、刺には下向きの鉤状の剛毛。繁殖は種子で洋服や動物にくっつき散布し、場所を選ばずどこにでも見られる。



コセンダングサ

○ アメリカセンダングサ (キク科)

北アメリカ原産の一年草、日本には大正時代に渡来。

花丈は 50~150 cm 位に四方八方にひろがり、花と葉はむらさきがかかり、3~5 枚の対生。

黄色の頭状花、コセンダングサに比べ、外側の“がく”が伸びているので頭花は目立たない。果実は短くて平たくその先に2本の刺がある。

繁殖は水田や日当たりの良い所を好む。“木もれびの森”にはコセンダングサが多く、在来植物である「センダングサ」は、近年では見ることが出来なくなりました。(松浦)



アメリカセンダングサ

木もれびの森の樹木

ウワミズザクラ (バラ科サクラ属)



晩秋から初冬、森の中にたたずむと、木の葉がハラハラハラ…ハラハラと舞い降りて、乙女ならずともそこはかたなく物悲しく、来し方行く末に思いを馳せるのではないのでしょうか。そんな中、まだ緑色の残っている林内でひととき鮮やかな黄色い光を放つ木を目にします。その葉を指でつまむと、しっとりとした滑らかな感触に驚きます。葉の先が尾状にとがるウワミズザクラです。この木は成長枝の他に脱落枝があり、葉が何枚か付いた枝を毎年落とすことで

知られています。脱落枝は同じところから6～7年にわたって繰り返して出てきては脱落します。ですから、幹や枝をよく見ると、脱落枝の痕が目立ち、全体としてごつごつした感じがします。冬の森の中でウワミズザクラの冬芽や落枝痕の観察は面白いのです。この脱落枝の側面に葉が数枚つき、先端には春～初夏、白い小花をブラシ状に開花します。ブラシ状に咲く白い花は華やかです。よく似たイヌザクラの花序のもとには葉がつきません。



赤色の冬芽

脱落枝

ウワミズザクラの花芽や果実はアンニンゴ(杏仁香)と呼ばれお酒のつまみなどに食する地方があるそうです。こもれびの森では、ウワミズザクラの開花を近くで観察することができます。イヌザクラは、少し高いので双眼鏡があると便利です。種名は、ウワミズザクラの枝を燃やしその上に亀の甲羅に溝を切ったものを焼いて占いをしたことで、上溝から転訛したという説があります。(鳥飼)